

ミオヤの光

玄義の卷

如來光明讚の頌

諸教の精要

玄義

講演概要

無邊光 (相大)

絶對觀より主客爲し

十方三世の色心は

一大理系の枝葉なる

如來は全てを自我として

體川相即相入の

重々無盡の交渉に

五識五塵は業識の

佛慧の勝妙五塵をば

個躰は衆生の阿頼耶也

如來の鏡智に炳現す

個性の自治を末那とはす

平等性智にて統る

識智は一即一切の

知見を與ふは妙智なり

衆生の所感は異なれど

成所作智の作用なり

無礙光 (用大)

法身一切智と能の

萬物を攝めて養ふと

報身無礙の光明は

本願不思議の力にて

神聖無上の命令は

正義は撰善捨惡にて

恩寵は三縁の慈悲をもて

斯の三徳の靈力にて

大道自然に行はれ

天命天惠とは言はめ

十方攝化の聖意なる

衆生を解脱し自由とす

道徳律の光にて

至善に向うて進ましむ

聖子等の靈を育みま

便はち佛道成せしむ

如來明讚の頌

無量光 (體大)

歸命無量光壽尊

獨尊統攝歸趣にまし

物心無礙に超時空

内に無盡の徳を具し

生産門には法身の

因縁因果の律として

攝取門には報應の

衆生を攝取し教化して

一身乃至十佛身

偏依の依なる圓實性

萬物内存心靈態

自然心靈界を爲す

一切知能は天則の

世界と衆生を生成す

二身を現して十方の

菩提涅槃に歸趣せしむ

無對光 (衆生成佛)

聖意に背きて顛倒の

攝取同化の終局には

無對は如來の自境界

十佛三身具はりて

衆生は開に惑ひしも

彼此を絶して無對とす

始本不二の覺位にて

亦身心土不二と爲る

極樂無爲涅槃城

同躰異名は智と情と

絶對無比の妙境は

無住涅槃に在まして

寂光華藏密嚴土

譬喩と密語に號くなり

便はち諸佛の住所にて

常恒度生は自然なり

燄 王 光

(除一切障)

燄王光の靈能は

理惑は無明と十見と

事惑は生理と本能の

亦是病的惡弊症

行不は衆生の性格を

聖意に背くは邪定にて

聖意に協ふ心靈は

二惑の雲霧はれぬれば

一切の惑障除くなり

塵沙の理智を障る性

衆生俱生の折質なり

團體瘴氣は同共罪

三衆に類を分つべし

天然非靈は不定なり

正定聚の員に入り

理事の靈性顯はるれ

清 淨 光

(感覺美化)

我等か五根は塵境に

感覺欲は充進し

清淨光に浴すれば

内に靈光感じなは

此身は塵に交るも

五妙感なる靈境に

五根に各五位ありて

法慧佛とは靈界の

まびれて常に汚さるゝ

習慣ついに病爲す

根識清く滌がるゝ

姿色も自づと潤ふるれ

神は清き光にて

逍遙として栖遊ぶ

肉と天とは自然界

勝妙五塵を感すなり

歡 喜 光

(感情融化)

有爲の世に處し幸福を

世は内外に苦惱と

解脱は己か任ならず

神祕融合最妙に

眞實勝妙樂を得て

人天自然の歡樂と

菩薩の佗受法樂と

如來歡喜の光明か

求めは八苦身に逼まる

罪と咎とは充滿てり

如來の大我に歸命せば

恩寵の中に安住す

法喜禪悅極みなく

二乗の眞空無爲の樂

佛陀の自受法樂は

隨類受用に外ならじ

智 慧 光

(佛和見開悟)

聖旨に背きて無明となり

識知争でか絶對の

如來の知見被むれば

智慧内包の聖徳と

三昧智慧陀羅尼等

人の常識學習智

二乘出世の眞空智

唯佛與佛の種智まで

妄想顛倒なる物の

如來の妙境測りえん

依正二報の莊嚴相

法身理想の相を觀ん

一切の佛法悟らるれ

天才自然の發明智

菩薩の道種智等より

皆智慧光の所現なり

不 斷 光

(意志靈化)

世界動機と主我の意は

斯光は衆生を正善に

如來の三徳加はれば

無上の道心發しなは

聖き意に靈化して

道德五重の動機あり

六道輪廻の業を爲す

靈化し菩提に進まし

自つと廢惡進善し

願作佛と度生心

普賢の願行成就せん

人天二道の徳よりも

二乗の自利菩薩利佉
如來の阿耨菩提なる

佛陀無上の道徳は
不斷の光に縁ればなり

八

難思光

(喚起位)

佛性宿因を素地と爲し
智識教化の勝縁と

名號聖種の開薫に
思修に信念萌發す

至心信樂欲生は

召換に報ふ子の心

恭敬無餘間長時

正進排雜神足行

讚誦禮拜觀察と

稱名讚嘆供養との

五種正行の法をもて

靈を養ふ資糧とはす

渴仰熱誠いや昂く

信念五根に力を得

恩寵喚起の時到り

心靈覺醒れば信滿位

無稱光

(開發位)

障れば自己の見と思の

非惡の深きを自覺せん

三昧凝神に妄想と

業障重きに苦悶ゆなれ

開發に隨信隨法は

如來の中に我を投し

七覺三昧に花開き

三種の知見示されん

神秘融合不思議にて

入我々入の奥邃し

歡喜極なく覺ほへて

真我の中に安住す

此時情操轉換し

靈き我とは更生へり

聖子の數に入ぬれば

便はち靈格備はりぬ

超日月光

(體現位)

智慧は靈界の日月にて

聖子を養ふ父母なり

九

諸教の精要

諸教の大觀

歸命無量光明尊
常恒普遍の妙法と
我今流布せる教法と
聖意に應はしめん爲め
宗教種類多けれど
絶對至尊を認めては
主體の心に生と理と
客體觀も多容にて
自然と超然圓具とは

分身十方三世佛
及び一切賢聖等
己が信解の説をのぶ
佛力加被を垂れ給へ
一切に通ずる定義あり
最終希望を滿たすにぞ
靈との三我に等あれば
教を三階位に分かつ
隨類應機の教なり

作佛度生の願行に
内外兩魔の健闘は
三徳の光の照護にて
已に靈果の熟すれば
聖意を弘く世に敷いて
佛子佛心佛行の
同一無量光壽なる

菩提の心を長養す
靈を琢磨く器にて
自律謝徳の金剛心
聖種を有縁に分播し
衆靈養ふ大地なり
果位は無上正覺の
涅槃の樂土に歸するなり

一〇

自然に多神と一體と
 自然の物素に神を認て
 一體教には自然なる
 自然元氣に稟けし身は
 超然教に一神と
 神は最高天に在し
 天地萬物ことごとく
 神に犯し、祖の罪
 神の示しの戒律をば
 一切を憐む慈父の愛
 信愛するもの無終なる
 波羅門天は絶對に
 冥きにさまよふ迷子は
 天父に冥合する時は
 彼に到らばことごとく
 衆生の業感より成れる
 報佛所感の淨界に
 阿頼耶所變の衆生界
 轉依の菩提涅槃をば
 前は空間此處かしこ
 すべて自然と靈界は
 圓具は前の兩界を
 一切に神性具ふれば
 萬有神と萬有に
 宇宙全體神なれば
 臺家は同居方便土

日月山河樹林等
 生我の幸福を求むなり
 宇宙全體神とはす
 終に自然に歸るなり
 一體教との二ツあり
 自然界に超越す
 神の聖意に造らるゝ
 子孫は獄火に燒かるべし
 守らば死後に救はれん
 一子に罪を代らしむ
 天に生るゝ基督教なり
 宇宙に超在したまへり
 幻夢の生死に苦をぞ受く
 超在界に歸入せん
 永遠涅槃に歸するなれ
 輪廻の苦界厭離して
 生を欣ぶは淨土門
 生死は惑業より造る
 三祇に期するは相家なり
 後は時間に因と果の
 超然として隔つなり
 統合して神の中とはす
 汎神教と名つくなり
 統一超然神となり
 衆生も神の分子なり
 報土は業の所感にて

唯だ佛のみ法身が
 衆生の心に三千の
 三千在理を衆生とし
 華嚴は全宇華藏界
 法界緣起の萬法は
 理事と事々とは無碍にして
 念劫圓融自在にて
 密家は六大毘盧の身が
 萬有互に主伴爲し
 一大毘盧の分子たる
 各自の曼荼開ければ
 禪には三界唯一心
 淨土と穢土の隔なく
 斷つべき煩惱なき者を
 厭ふ生死もあらざれば
 是等は何れも高遠に
 内觀理想に傾きて
 斯教は汎神超在の
 神は實在圓實性
 展して相對世界性
 因緣性より三展し
 極小各部の伏能は
 生物向上みて人類の
 神は自性終局の
 報應二身を示しては
 遠求二心は神人の

常寂光土にいますとぞ
 世間相即圓融し
 三千果成を佛陀とす
 森羅萬衆十佛身
 融して相即相入し
 主伴重々無盡なり
 生佛因果同時なり
 隨緣三千四法身
 重々無碍に相關す
 衆生は理智の大日佛
 毘盧密嚴は顯はるれ
 一切萬差是眞性
 衆生と佛と二ツなし
 菩提を證する要やある
 欣ぶ涅槃も更に無し
 美妙を究め盡せども
 客觀を疎する嫌あり
 一體神を信認す
 屬性一切智能より
 十方三世に相關し
 個々差別の衆生性
 全部と共に進行し
 理靈の二性と自發せり
 心靈界に攝せんと
 歸趣の理性を顯はせり
 因緣力の理法にて

光明攝化の終局は

諸教の宗趣

宗とは神人交感の趣とは教靈更生の如來の中に我を授じ開展靈化の功を成し自然教にて降神は神の啓示を蒙りて超然教には超絶の聖旨を示され罪ほろび念佛三昧宗と爲し業事成辨功成りて如來出世の因縁は開示し悟入せしめては一念三千三觀を即凡見佛功成りて華嚴三昧に法界の見聞解行證入の自心の曼荼三平等理具と加持と顯得の直に自心の性を見て任運自在に解脱して今は念佛三昧に信念喚起開發し聖旨を己が心とし

本始不二とは成りぬべし

一六

宗教心理の中心點
宗教倫理の終局なり
生佛合一するところ
光明中の人となる
生我に靈を交感す
斯願満足得らるなり
神の聖靈感じては
聖き人とは更生す
生佛感應する時は
往生淨土に定まりぬ
衆生に具する佛知見
佛の正道行せしむ
四種三昧に行道し
六即成は臺家なり
觀には理事の無碍を得て
三生覺位は華嚴とぞ
三密體宗行と爲し
三生佛位は秘密宗
無相無念を宗とほし
自然作佛は禪那なり
己れを彌陀に投じては
心靈更生期するなり
光明中の人となり

命のつとめを果しては

宗教種類多けれど

理感二性は能と所の

理性は形式動機にて

感性内容動機にて

前は自性の天真を

後は絶對我を授じ

今は二性を綜合し

恩寵に感性充されて

願はくば我同胞等

同じく聖意を體しては

眞實報土に歸るなれ

通じて二性に分つべし

二動の動機によればなり

先天自性を開くなり

後天恩寵を受くることぞ

開悟し解脱を宗とせり

救靈の力を仰ぐなり

天真自性を開きつゝ

開發靈化を期するなれ

一切と恩寵を被りて

共に安寧に到らなむ

一八

佛陀三昧教阿彌陀宗義立義

斯教の玄義分を

初に、名。二、體。三、宗。四、目的。(趣致)。五、教相。

名 阿彌陀。總別二名。總阿彌陀。

古來宗教に所依の法體を名づくるに二。一、宗教的名詞。二、學術語名詞。

一、法身。如來藏性。ピルシヤナ。大日(金胎一體)。アミダ。眞神等。

二、眞如。法性。涅槃。第一義。眞理。妙法等。學術語名詞。

種々無量の名稱ありと雖も同じく所依の實體を表象する名詞なり。

今宗教的にアミダ亦如來を以て宗教的所依の法體とす。又所依實體に佛と法とあり

佛を本尊とする教には佛に依て三世諸佛も正覺を成すとす。

法を本尊とするものは三世諸佛此妙法即ち理法によりて成佛す此軌持を離れて成佛

の理なしと。

一七

一九

同一の實體を甲は擬人的に實體は色心を統一したる絶対心靈即ち如來なりとし。法とは如來の理性に外ならずと。

乙は色心を統一したる實體を理法と名づけ亦真如妙法と名づく絶対理性を所依として妙法と名づく。

同一の實體を甲は心靈態とし之を如來と名づけ。乙は理體として之を妙法と名づけたるも宗教としては擬人論的に如來と名づけたるを適當とす。

今は甲を取りて如來とす。

如來に總別の名あり。其如來の體相用を詮表するの名稱なり。

總にアマダ。三身一如の總稱なり。時間に無量壽、空間に無量光、即ち絶対心靈態の稱なり。

別、十二名稱。

無量光—體—法身
無邊光—相—般若—如來性能
初三 無礙光—用—解脫

無對光—如來自境界—真佛土即涅槃
終局目的歸處—要—人ノ煩惱
消極—解脫ノ能—佛性開發
炎王光—積極—解脫ノ能—佛性開發

宗教心理—如來の靈に依て成したる心理狀態

清淨光—四面玲瓏—感覺
六根淨

歡喜光—融合—感情
安立

智慧光—啓示—智力

不斷光—靈化—意志

宗教倫理 行儀分

難 思光—恩寵喚起—信仰修養

無稱光—同 合一—同 開發
開發

超日月光—同 靈化—同 實行

總別 宗教客體如來の性能を詮表し名は體を徵す。名を已に釋す。次に體を明さん。

◎實體 如來實體即ち宗教的依所の體。

實體に就て古來唯物論者は現實の原理は物理的原子のみと。一切事物は時間空間の自然律によりて萬物發生す、一切生物の心理も原子運動の變化に過ぎずと。故に一元理は唯物なり。

唯心論者は觀念的世界觀の如きは宇宙實體は一大觀念なり、宇宙に目的あり、世界秩序の最終目的は大菩提にして道德至善に趣歸する理性なりとする如きは觀念論宇宙觀なり。

又三種世界觀。

唯物と唯心と唯理論者なり。

世間唯物論者。又俱舍の法體恒有說。唯識論の唯心說。唯理、實體本質は物心を統一したる理性なれば真如等と名づく。

今は實體は物心を總合したる心靈態として之れを華嚴に總該萬有心と名づくと同じまた永恆自存心靈態と名づく。

心靈態は意識的にあらず、故に物質にも意識にも現し實體は四融相即して不可離なり、一大心靈を根底とせざる萬物なきとすれば一切個々の之を實體とす。

楞嚴に世界一切因果微塵に至るまで心を以て體とすと云。

◎宗とは一教の極致、主義なり。また通して云はゞ宗教の定義なり。宗教の定義は主體と客體の直接なる關係によりて人の心靈を開發し宗教的生活に入る理元なり。天に太陽二なく國に二王なく宗教意識所依の中心點即ち唯一の本尊なり。法華の如くは一大事因緣即ち如來と衆生との感應によりて衆生の佛知見を開示悟入するを宗教とす。禪に自己が根底絕對主體たる一大理性を發悟し見性を宗とす。

密家は本尊の三輪と行者の三業と三密相應し神秘的に神人合一し神我に加はり我神を持し此神秘によりて如實に自心を見するを宗教とす。

今は念佛陀禪那、如來の聖靈と行者の靈とは機能致一にし三昧相應を宗教とす。各宗名を異にするも要する處主體の心靈と客體の靈應との交感によりて知見を興え

融合し安立してこの關係により實際の宗教人格を革新し更生せしむるの功能あり。故に宗の定義は大我小我の調和、神人合一の點になり。

宗に宗教意識の階級に等多しと雖とも性質に於ては二種に過ぎず。

理性宗と感性宗。甲は能動的に自己の主體の根底たる絶對主體との關係を以て自性を開展する時は自性は佛本煩惱なく無漏聖智本來具備すと意識す。修に依て顯はる修成にあらず。こは形式動機なり。天台禪等の如きはこれに屬す。

感性宗は自己は白紙の如く如來の靈應を感じて始めて靈性成す。是は内容動機とす。本有の靈性をば裏とし新舊の感應より經驗すべき靈聖を表とし内容動機。淨土部類、キリストの如きは之に屬す。

今は理、感、二要素を調和したる。禪、淨、統一せる宗教。

理の念佛、理性、絶對主體を開發す。事の念佛、感性、内容動機。事相念佛相待。自己は罪惡。如來の恩寵によりて解脱す。

理性は本有にして法身より先天に賦與せられ、感性は修成、報身の靈應に感應して甲は開發にして乙は解脱靈化なり。是れ完全なる宗教意識なり。

歸趣即ち目的

宗教が生活過程の最終目的とする處は往生淨土にあり。往生と成佛と名異義同し。即ち更生。更生とは天然の生活を化して如來の交感によりて如來の目的に協力し即ち自己の最終目的なり。

神人合一の靈能によりて理性開發して自性天真顯示し感性靈化して大我と融合し中に安立し其指導によりて靈的生活々動をなすに至れば之を更生としまた成佛と云。

更生に二種、精神と身體。即ち有餘依と無餘との二涅槃と相當す。如來の靈應との感應により心機一轉し人格革新靈格としたる有餘の身を有しながら理想解脱して心は淨土に棲みあそぶを神は涅槃なり已に生死を脱したるなり。

次に如來に協力して靈目的に活動する終に有餘の身蟬脱して實在解脱に歸入するを無餘涅槃と云。

涅槃は、理に約して常寂光土事に約して極樂淨土。一體二面。

個人生活、涅槃に歸して、理性は絶對に個人生活を超越す。感性は解脱靈化の心靈活動の勢力不滅の故に方便法身は個人生活不斷に相續して盡ることなし。

體常恒の故に用もまた隨て不滅なり。故に無住處涅槃なり。生死に住せず涅槃に止らず任運無作に常に化用を施す。無上菩提を證し大涅槃を得るを終局目的とす。

教 相

一切の宗教を通じて三階級とす。原始の宗教より最高等に發達したる迄。

一、自然教。幼稚なる宗教意識に相應せる自然的人類には自然物素の中に神を求め其請求する處また肉體の苦を解脱し幸福主義なり。是に多神教一神教汎神教あり。

埃及自然一體教は其總なり。

二、超自然教。自然界を超越したる靈界に神及神の國を求む。此に多神教一神教汎神教あり。

また超然教に時間的、三祇の後成佛。空間—十萬億土、また天上界。

淨土方便說 衆生所感を此土とし佛の所感彼岸とす。

三、圓具教。初の自然教と超然教とを統一し總合して高等なる意義を以て。精神教。

衆生本有に靈性具備し之を統一するは神なり。一神と汎神を統合し汎神の中に統一せる神あり。無量時間を一念に統一し我を捨て如來に歸入する時は一念に三祇を起ゆ。

娑婆即淨土。相對彼此は機の感見我を捨て如來に歸する時は此に即して十萬億土

我を轉じて佛慧に依るときは即身成佛。時間に拘はらず空間に問はず唯心清に隨て淨土清。

眞實淨土說。阿彌陀佛去此不遠淨業成者即於此即觀。

世界觀。娑婆即寂光。去此不遠。此土を去らずして心靈開發し法眼開く所に、
ダ現前し極樂顯現す。

一佛土統一世界。觀念界統一一切感覺界。

一佛統一一切佛。彌陀即一切諸佛。本體と迹佛。

圓具教は唯汎神教と一神教との調和にして汎神に統一せる一神なり。是最も完全

たる宗教観なり。

教相即ち學說と成立宗教の區別

宗教形而上論は如來の本質性能を論究す。一切の理論的宗教哲學とも發達の程度同等なる時は何にも調和せざるべからず。眞理一なればなり唯所見を異にするのみ。

吾人が學說は宗教進化主義なり。

科學と調和しすべての進化せる宗教と致一せざるべからず。

聖淨二門は學說と實行にして、淨土の學說なり。

禪淨は實行のなれども自力自力と云よりは精神宗教にして理性主義と感性主義となり、形式と内容となり。

今は理感二義を調和したる高等の宗教的教相なり。

體大

所依體 體名

體三義

獨尊—體の性・體量・體具—一切能無量恒沙性徳

統攝—體質・體二面。

統攝—天則統一萬物生産し。

歸趣—攝取理性。

所依體。ビルシヤナ、宗教客體、一切の依屬する處。

密家に此宇宙全體大日の體とす。六大無碍の體。六中に就て地水火風空即ち堅潤煖動氣態の物質態は宇宙を物體の方面より之を理體の胎藏界の大日とし、宇宙は全體物界にして理。無盡の性徳を含藏して此理體より萬物を生産す故に胎藏大日とし。

識大は宇宙は一大精神體として之を金剛界大日と稱す。金胎一致の物心一如理智不

二の大日尊として、

即ちアミの實體なり。アミを假に大日と名づけたるに外ならず。宇宙萬物物心理智悉く此アミの實體を所依とせざるなし。

ヒロ、華嚴には十佛如來自境界とし、宇宙實體は國土と衆生と正覺との三世間を融したる如來の自體とす。宇宙全體を直觀にヒルの實體と觀すべし。文字の枝葉に泥滯して眞理を失するなかれ。世界一切の所依の體なり。

法體の三義

獨尊(實體)

統攝

歸趣

三性分別して法體は偏計依佗に非ず實體本性なるを明す

偏計所執性—相待規定より天則律の個體に妄に計して執する性

依佗起性—世界性—相待規定—萬物因果律に生産せらる

圓成實性—如來實體—世界の根底—絶對無規定

體量

體質

體具 内容無盡徳、相と用とを具し。

體の二面。不變と隨縁。不動と顯動。

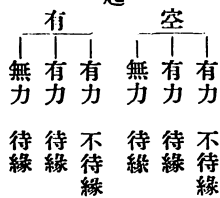
三大

體—生産攝取二門

生産三大

攝取三徳

六因。四縁。法界縁起



無邊光—相大—一切智慧—一切と法身の相大

如來法體、絕對心靈の相大。一切智慧に四面

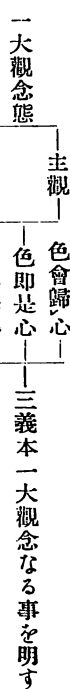
一、大圓銳智 絕對觀念態

二、平等性智 理性態

三、妙觀察智 智力態

四、成所作智 宇宙一切感覺となるべき作用

(一) 鏡 智



(二) 平等性智

絕對理性態

一、偏執性—特殊的性 普偏性より出たる萬物個々因縁所成の上自ら特殊の性格をなす。

二、相待規定—普偏性 隨縁差別。天則的の普偏性。陰陽雌雄男女の如き。

三、絕對理性—相待依怙の本體即組成實性。此二面不變平等隨縁差別。

天則秩序の理性。終局目的の理性。

一、一大理性。内容無盡性徳より發展の順序は平等理性より出て自然界には單純より複雑に進み心靈開發すれば平等純粹の理性となりて性智顯現す。

化學の平等理

化學の一大元素は水の如き一大元素に相愛するものと反するもの重厚稀薄となり消極極

生命一體觀の理、不生不滅。

生命一體萬差の波あり。人生の波。原始人類より千萬代を通じて同一生命の異外胞なり。子々相續して萬世一系なり。

生物生命、原始的生物、微粒 アミンバが水中に生活したるものが無核生物となり單細胞腸形細胞等より漸次に發達し高等動物となり進んで人類となり機能的生命は一切の生物が歴史的に生命相續して生命は一系連綿なり。生物生命が内的理性の自然律によりて順次に向上發達するは天則理性の規律による。即ち性智が天則理性に含蓄す

るが故に萬物を向上せしむるなり。

個體生命は一切の物質を徵集して身を造り天則の理により自己よりまた分身して生命を相續す。一切生命は原始より表面は千萬代を累ぬるも其裏面に於て同一生命の理性存在せり。

自ら不生、不滅、不常、不斷、不一、不異、不去、不來、の八不の理は生滅去來の萬法を統攝す。喩は水と波との關係の如し。平等海水は一大意力の風に發動せられて生物世界の波は立起しぬ。個々を因果律に規定し之を統る理智は萬物に經緯として秩序を整束せしむるのみにあらず亦生物生命を向上す。

生物生命を向上するは心靈を終局目的の手段なりと云ふべし。

人未だ心靈開かざる時は八不の理性は因果を規定せる天則の理性とのみ觀じ來しも心靈己に開發する時は自己の理性と一體なるを見す。

一 絕對理性 二 相待天則普偏性 三 相待天則特殊性

吾人の理性と萬物を造化するに含蓄せる理性とは同一なり絕對性態中の萬物なればなり

一は絕對理智。即ち圓成實性。無規定。此に二面あり。一方は永恆不變の平等性態一面は隨縁即ち意志に發動せられて差別の生滅轉變の世界と現する理性は其萬物に含蓄して之を組織する經となりて天則秩序を整束す。

第二は相待を規定する天則の理性なり。第二義門には相待即ち因縁相待ちて萬物を成立す。萬物には相待比せる兩性を以て相待し。陰陽兩動雌雄剛弱。所謂る理性と感性能動と所動消極と積極等。

相待の兩性が因縁相待つ。

第二義の普偏性。萬物には天則的に普偏なる共通性あり。生理學の生理機能が營養生殖精神機能の如き、解剖學の人類身體組織の共通せる理性。

動物學の生活形式、植物學の植物の生活形式の如き、心理學の人類心理の、佛教唯識論の百法中有爲の萬法、

人類等の普偏性として具備 天則の理性にして、

第二は第一の理性の中に自然規定より成りたる因縁所成の生理機能に含蓄せるなり

秩序を整束する理性なり。

第三は第二の普遍性が相待規定によりて成りたる萬物が各個體をなす因縁の關係によりて第三の特殊性質をなす。第三は生理機能的心理的にも

二は一切人類本質生活條件一定基礎共通

三特殊の本質形成と生活條件、種々の資性生活、各個人内面的事情即ち本質は個人性を有す、個人性は人々の天資及び性癖を認む、普遍的規則は性癖を顧みず。

二は天則自然規律にして三は因縁所成の本質形成なり。第一の絶對無規定の實性は不動なれども顯動せる萬物を經倫するには天則秩序の理性として秩序を整束す萬物の中に非ず外に非ず自中存在して。

第二相待規定を規定せる本體は實性なり。故に萬物には秩序あり、理論的に規律を行ふ。之を依佗起性と名づけ、依佗は因縁生なり因縁にあらざれば萬物生する理あることなし。

第二の因縁所成の萬物はまた因縁の關係によりて種々に轉變するものは第三の偏執性となる。普遍と殊持と同じく平等なる理智によりて統一せらる。

人第三の偏執内容の我執愛憎等の偏執を脱し普遍性に進で自佗の分別を脱し普遍的に普通の天則に任したるもの第二の天然相待規定を脱して絶對理性と相應す。

性智と鏡智との區別

鏡智は一切を包括せる唯一の觀念態即ち總體の形式なり。萬象は意志に實現せられたる客觀々念にして其全體内容は統一的理性即ち平等性智なり。

性智は觀念の全體内容より秩序的に理論的規律に一切開展す。

絶對觀念の全内容は純粹理性にして全空間を盡して平等に時間を盡して同時態。

個人に如く感覺省慮説話等の相を有せず、差別の相なきが故に内容轉變は全く理性に即一切慧なり。

第Ⅲ、妙觀察智。理感の交感關係。

法身の體即ち一大理智と作智との理性と感性との融通交參の關係を性として萬物を開展する妙用なり。

自然界にも心靈界にも妙智の妙用によりて理感の關係によりて萬物を開展す。造化の妙用此妙智にあり。

自然界の陰陽二動相反する兩性の關係によりて消極と積極との關係によりて天地成り萬物化育す。

雌雄兩性の交感によりて生物世界を開展す。印度の或宗教が生殖器を以て造化の神を表す。

神人交感によりて宗教の心靈を開發し更生す。

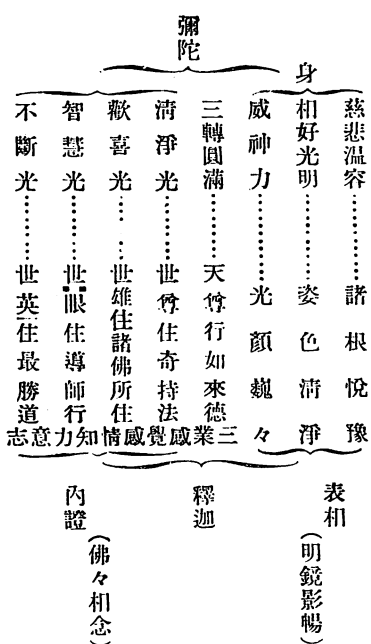
靈格となりまた人類に天國を開くの鑰なり。

自然界の萬有が兩性交感作用に由て開發生産。

神秘の寶藏を開きて内容不可思議の性相を悟入せしむる寶鑰なり。(以下斷絶)

尾張教區教學普通講習會講演概要

念佛三昧證得 光明靈化人格標本 三昧果位



念佛三昧
向位

八		正		道		分	
正見	正思	正語	正業	正命	正精進	正念	正定
七		學		支		念	
擇法	精進	喜	輕安	定	捨	念	念
信		進		定		惠	
信	進	念	定	根	定	慧	慧
防未生惡		斷已生惡		增已生善		生未生善	
信	進	念	定	根	定	慧	慧
欲		信		至心		欲	
欲	信	至心	信	欲	欲	欲	欲

一 轉現位
二 開發位
三 喚起位

身 如來 自己 不淨

受 如來 自己 苦毒

向位 名號 聖種子

心 如來 自己 無常 不斷

法 如來 自己 無明 智慧

新月漸々光明增長十四夜ニ至ルヲ向位トス

佛身 相好、(形式) 解剖學、骨相、固定、物理學的、諸根悅豫等、(内容) 生理學的、血色、變化、化學的、

表情 三 相

諸根悅豫 一眼耳等五官五臟等三十二根 (生理機能ヲ根ト云)

二 悅豫 彌陀靈光三昧融合靈感法喜禪悅三昧妙樂

三 機能調節 神經系ト分泌作用ノ(ホルモン)

分泌液 生成 制止 有機體ノ要求ニ應ジ活動力調節
增加 減少 血液中循環特殊化學的成分

姿色清淨 血色氣色氣海丹田ニ氣ヲ養ヒ靈氣ニ充テ邪氣去リ神氣玲瓏王ノ如ク佛陀金色爲外塵不酸化生鏽三昧融合快活姿色清淨

中樞 交感神經：傳達 收縮 血滅青白色
迷走神經：抑制 弛緩 血多量潮紅

光顏巍巍々 三昧定意頂骨挺出威神尊嚴獨尊統攝歸趣之威德具備
求心部遠心部中間部 腦髓神經統一機關調整。諸根悅豫ノ讚

1 彌陀の慈愛は永しへに天と地とに充滿てり三まやの床に融合うて悅豫極み無り

四〇

四二

けり。

2 慈愛に滿つる彌陀の面朝日まはゆく輝やける靈き姿を想ほへば悅豫極みなかりけり。

3 今佛三摩耶に心すみ慈悲の聖旨に融合うて神秘不思議の靈感悅豫極み無りけり。

4 我み佛の慈悲の面、朝日のかけに映ろひて照るみ姿を想ほへば靈感極まりなかりけり。

5 春の氣にあふ櫻花物こそ云はね樂しさは色と香りに現るは彌陀に觸たる心かな姿色清淨讚

1 譬へは西に日は入るも光は月に映ること無量壽王の日光は牟尼滿月に輝やけり

2 まはゆく照す朝日かけ金剛石に映ること彌陀光王のみ光は牟尼の姿に輝やけり

3 譬へは明淨なる鏡影は表裏に暢ること彌陀の光に映へる牟尼の姿の清らけし

4 無量光の朝日かけ三まやの窓を照します牟尼の金の姿に色映ひて清らけし

5 彌陀の光に映ろへる牟尼の姿は清らけく金の色は妙にして世にまた比ひ無かりけり

光顏巍巍々讚

1 萬の山に立こえて須彌の峯は聳へけり彌陀の朝日に映ろへる牟尼の威神は巍たかし

2 日月摩尼の光さへ隠れて墨の如くなる彌陀の威神の極なきは牟尼の光顔に現はるれ

3 彌陀の神聖なる聖旨牟尼の光顔に現はれて威神の光明極みなく三千界を震動す

4 天つ摩羅の吹き起す百の雷群雲もみ天さゆかに照します月には障りあらざりし

5 宇宙に獨り尊かりし彌陀の威神の極なきは人佛牟尼に現はれて光顔けたかく輝やけり

果位五住

一、世尊奇特法 1 靈德神威天龍八部所尊崇故世尊 2 奇特亦奇蹟神通自在神變又神

四一

四三

力不思議威通力能威伏衆魔及驕慢邪見折伏攝取ノ妙用アリ 3 例神威感動鹿苑五比丘神異降伏伽葉兄弟一觸者衆患悉除 4 佛徒奇特舍利弗降伏舍租外道 5 龍樹對治外道善導師佛像現光降化惡輩宗祖頭光等

二、世雄諸佛住所(感情安住)世間豪傑諛執女耽酒嗜味非負勇佛陀真英雄中雄制伏煩惱調御丈夫 2 佛陀昔在宮中在色味中見老病死爲生死問題苦悶入山學道降伏內外十魔成正覺 3 安住會那大我方坐蓮台四德莊嚴自受法樂十佛自境界真安住處 4 衆生貧窮輪轉六道心無住處夕無衣食住心無安時顛倒幸福主義苦悶因 5 依佛陀教自己ノ顛倒ト世界依屬心解脫ヲ求ム 內外兩魔被襲自己力及能ハス

六 釋迦ノ教ニ隨ヒ彌陀ニ一歸命(感情)ニ融合(心情)
 三 安住(情操)安住如來真大我聞諸佛等常恒安立大涅槃城
 三 世眼導師行(知力知見)佛陀一切世間眼 1 世人悉無明不知生死及涅槃理(人生觀未來觀宗教觀) 2 宗教觀天然人無學故無知(先天)學者還爲學問惑(後天)見惑中唯物論者ノ細胞生命電子生命等最巧妙 3 佛陀世眼初未明生死源入山學二仙後於佛樹下朗然大悟得一切智 4 佛陀出世本懷爲一大事爲衆生開佛知見悟入佛正道

開 佛身及淨土ヲ見テ妙色聲香味觸等ノ感見亦觀見
 示 如來ノ四智慈悲等ヲ示サル又如來ヨリ種々ノ未然等ヲ示サル
 悟 如來ノ法身眞如ニ證入ス
 入 入佛法藏如來ノ有ヲ我有ト爲テ無生總持一切種智乃至一切佛法ヲ悟達スル

5 宗祖等ハ世間ノ眼ト爲テ世ノ導師タリ
 四 世英最勝道(意志道德標準)
 1 佛陀所得ノ道ハ最勝即チ無上菩提彌陀ノ大道(阿耨菩提)三世諸佛行此道成佛ス
 斯道者至善究竟地ニ通達義 2 道德五階人天道聲聞道緣覺道無上道人道履行故人格備無上道(彌陀大道)行故成佛即到究竟地

3 衆生意志發達順序 初動物的(生理衝動)
 次主我意志—世俗情操(因)欲望心

世界道機(緣)世ノ名譽權利財產等

4 人格形成因果 性不定意(因)善惡業造六種子誠
 5 人格三位一非人格(三惡)二人格(理性)三靈格(靈性)
 6 靈格形成 い願作佛心 ろ靈的生命開發 三願度生心一切衆生成佛ヲ期ス

五 天尊行如來德(彌陀三輪釋迦ノ三業實現)
 1 彌陀者天佛(本覺)釋迦者人佛(地上佛)釋迦者大彌陀人格顯現佛陀三業完全道德行如來德
 2 佛陀自覺覺他覺行圓滿共一切期圓滿
 4 宇宙法界德身上ニ如シ來リ一人徧天地法界事理三業能宇宙法界萬物ニ應スル功用即如來德十力及十八不共法等以テ三業莊嚴
 5 如來太陽光ハ映現牟尼淨滿月三輪完德鑑佛子ノ範佛子新月漸々盈滿ニ至三世諸佛ハ悉ク果位トス釋迦ヲ以諸佛ヲ表ス

三 味 向 位
 念佛三昧萬善萬行總持 向位道諦七科三十七道品此道品通大小權實三乘及菩薩宗教生活同一形式植物生活ニ例ス
 聖種子 生滅四諦法ハ聲聞ノ種子十二因緣ハ緣覺種子無上菩提心成佛ノ種子彌陀名號成佛ノ種子一切生物ノ種子ノ如シ。彌陀名號種子分折ノ四要素 1 身、如來清淨光清淨法身乃至六根及一切清淨相好光明等ノ正因 2 受、歡喜光法喜禪悅受用法樂涅槃四德常樂ノ元素 3 心、如來不斷光無上菩提道徳ノ元素 4 法、智慧光無上正覺一切智ノ元素、斯萬德總持ノ名號ハ杉ノ種子ニ根莖枝條葉花ノ性分アルニ例ス

四 正勤自己ノ我欲等ヲ犧牲ニシテ靈性ヲ萌發ス 防惡 斷惡 增善 生善 自我ハ一切惡ノ統梁念佛心ハ所有ル善ノ代表、自我ヲ犧牲ケテ念佛心ヲ發揮ス稻ノ果腐レテ萌生スル如シ

四 如意足今ハ一至心ハ形式ニ信三愛四欲内容至心眞實ニ如來ヲ信シ愛シ靈國ニ生レシトノ欲望一眞實消極ト積極ニ信機、自己汚、苦、無知、罪惡、信法如來我ヲ常樂我淨ニ變化シ玉フトニ愛自己ノ凡テヲ憎ミ如來ヲ愛樂ス三欲、願生願作佛願度生ノ心

度生ノ心

五 五根ト五力己微萌未發根此五法三昧、佛生谷一ノ根ヲ發一、信如來心光ヲ我有ニセントノ信根 二、精進勇猛ニ熱誠ニ心中ノ佛子心ヲ發揮セント 三、念如來日光ノ熱ヲ愛念シ益靈性ノ根發セントス 四、定如來心ト合一シテ離レサラントノ心 五、慈如來ト合一シテ如來光ガ自己ノ光ト爲テ自覺ス

六 五力根トカトハ内ノ安心ヲ根トシ其ノ働キ依テ發達スルヲカトス例セハ植物ノ地中ノ根ト地面ニ現レタル莖枝等ト相關聯スル如シ慧ニ依テ信心喚起ノ覺醒トス

七 七覺支心靈ノ花開ク心意狀態 1 擇法如來心ヲ擇テ簡ニテ虛偽雜念ヲ取ラス

2 精進勇猛ニ念佛三昧發得佛ヲ見ント欲シテ止マス 3 喜微カニ如來靈ニ接觸シテ三昧ノ喜ヲ感ス 4 輕安諸雜念ナク無我ノ境ニ入り身心輕安ヲ覺フ 5 定無我定中

佛心ト合一シテ三昧定樂ヲ覺フ 6 捨初ニハ注意怠ルトキハ佛現前セス三昧純熟ス

レハ任運ニ現前射ヲ習フニ熱スルトキハ無意識ニ中ル如シ 7 念自己ノ中心カ彌陀ナレハ彌陀ヨリ流出スル念々悉ク佛心ト相應ス一於テ三昧發得シ心靈開發シテ佛知見開示入我々人ノ妙境ニ心機革新シテ新人眞佛子ト爲ル

八 八正道分三昧結果果ノ成熟スル如シ 1 正見己ニ佛知見開キ佛子ノ知見如來ノ

聖意ヲ我意トス故ニ自ラ向フ處佛行ニシ向上ノ一路ナリ 2 正思正見ノ心眼ヲ本ト

シテ思惟スル處凡テ思想佛心ト相應ス 3 正語聖意ヲ心ト爲スル思想ヨリ發表スル言語ナレバ悉ク佛意ト相應ス 4 正業思想言語共ニ佛心タリ其身ノ動作行住坐臥ニ

作ス處佛行ト相應ス 5 正命身心ノ生活悉ク佛心佛行衣食住共ニ佛ノ中ニアリ 6

正精進勇猛ニ奮闘スル處佛行ナラサルナシ 7 八憶念々悉佛心ト相應ス 8 佛心ト

合一シテ常ニ佛子ノ行念々ニ向上シ歩々ニ往進ス

彌陀ハ靈界太陽ナリ衆生心ハ月ニ例ス月本闇黒日光映シテ明ト爲ル衆生心ノ晦月如來ノ光ヲ受テ纖月ト現レ漸々ニ進ミテ十四夜ニ至ルヲ向位トス圓滿盈テ缺ルコトナキヲ佛果ノ位トス

大正十二年四月二十日印刷同二十五日發行

誌代年六冊壹圓貳拾錢 年十二冊貳圓

編輯兼發行人

山崎

辨成

印刷人 東京橋區本八丁堀一丁目十五番地 秋場熊太郎

發行所 東京小石川區水道端二丁目四十四番地 ミオヤのひかり社

振替東京四九三四八番